

ネギ（深ネギ春まき・秋まき）

			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	春 ま き	普通育苗												
		トンネル育苗												
主な作業			<p>← 播 種 →</p> <p>← 定 植 →</p> <p>← 土 入 れ →</p> <p>← 追肥・土寄せ → (4～5回実施)</p> <p>収 穫 →</p>											
作 型	秋 ま き	普通育苗												
		トンネル育苗												
主な作業			<p>← 播 種 →</p> <p>← 定 植 →</p> <p>← 土 入 れ →</p> <p>← 追肥・土寄せ → (4～5回実施)</p> <p>収 穫 →</p>											

技 術 体 系

1 作型の特徴

(1) 春まき

春の適温で育苗し、夏に定植、秋の適温で生育させ冬に収穫する。春の抽だい前に、収穫を終えるのが基本である。

(2) 秋まき

秋の適温下で育苗し、秋～冬にかけて収穫する。この栽培では苗がかなりの大きさになってから冬を越すので花芽分化しやすいので注意が必要である。

2 適応地域

全域

3 栽培条件

(1) 温度

発芽適温は15～25℃で30℃以上では発芽率が低

下し、10℃以下では発芽が遅延する。

また、生育適温は15～20℃で、25℃以上では生育が悪い。

(2) 光

種子は嫌光性で暗所の方が発芽は良い。長日は生育を促進し、葉しょう部の伸長を促す。

(3) 土壌

土壌に対する適応性はかなり広いが、根の酸素要求量が大きく多湿に弱いため、耕土が深く、排水・保水性の優れるところがよい。

4 経営目標

(1) 収 量 2.0 t / 10a

(2) 投下労働時間 250時間 / 10a

(3) 所 得 率 59%

(4) 経営規模 40 a

(家族労働力3名の場合)

栽培技術

1 品種と特性

「冬扇」(春まき)

草勢が強く立葉で、葉折れが少なく、そろいがよい。低温伸長性に優れる。

「長悦」(春まき)

耐暑性、耐寒性が強く、播種期を変えることにより周年出荷できる。襟は良くしまり、分けつは少ない。草姿は立性で葉折れしにくい。

「長宝」(春まき)

耐暑性に優れ、高温時でも生育は旺盛で栽培しやすい。草勢は強く、葉は濃緑色でやや短く、葉折れが少ない。

「夏場所」(秋まき)

夏秋どり用1本ネギで、濃緑で襟の締まり・太りがよい。短葉・立性であり、倒伏や葉折れも比較的少ない。

2 育苗

(1) 地床苗

ア 苗床の選定

10 a 当たり200㎡の苗床が必要である。土壤病害虫の被害を回避するためネギの作付け跡を避け、乾燥や湿害の生じない肥沃地を選ぶ。センチュウ防除を実施する。

イ 苗床の準備

播種の1ヶ月前に碎土整地し、1 a 当たり堆肥200 k g、窒素・カリを成分で1.8 k g、リン酸を2.0 k g 施用する。また、p Hは6.0~6.5となるよう調整する(低いと生育が劣るため注意する)。

ウ 播種

播種量は10 a 当たり0.62とし、畦幅120 c mのあげ床に条間20~30 c m(4~6条)で条まきする。

また、発芽揃いを良くするため、鎮圧を十分にを行い播種後の乾燥を防止する。

エ 育苗中の管理

育苗中は土壤水分に注意し、特に滞水しないようにする。また、除草をかねて苗の密生したとこ

ろや、萎縮した苗の間引きをして均一化を図る。

トンネル育苗は草丈10 c m程度になったら日中20~25℃を目標に換気を行い徒長を防ぐ。

(2) セル成型苗

セルトレイに専用培土を詰め、コーティング種子を1穴3~4粒播種して覆土する。30℃以上にならないように管理するとともに、乾燥しないよう適宜灌水する。育苗期間は50~60日であるが、葉を3~4回切り込み、葉鞘の太い充実した苗をつくり、草丈20 c m程度にして定植する。

3 本圃

(1) 本圃の準備

ネギは湿害に弱いため、排水の良い圃場を選定し、完熟堆肥を2~3 t 施し土作りを行う。また、p Hは6.5~7.0となるよう調整する。

(2) 施肥

(k g / 10 a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基 肥	6.0	12.0	6.0
追 肥	16.0	16.0	16.0
合 計	22.0	28.0	22.0

施肥量は土壤診断結果により調整する。

(3) 畦づくり

夏の強い日光をさけ、台風時の強風を防ぐため、南北方向に畦を作る方がよい。

地床苗の場合、畦幅は、土寄せが十分できるよう80~100 c mとする。溝の深さは軟白部の長さと同程度30 c m以上の軟白ならば深さ15 c m程度あればよい。セル成型苗の場合は、畦幅90~100 c m、深さ10 c mとする。

(4) 苗の選別

苗は当日植える分だけをできるだけ根を切らないように掘り取り、健全な苗を大・中・小に選別する。

(5) 定植

栽植密度は下記を標準とするが、畦の大小や苗の大小によって加減する。

畦 幅	株 間	10 a 当たり本数
80~100cm	3cm	33,300~41,600本

地床苗の場合は、南北畦では溝の西側、東西畦では北側によせて、溝の底に根を広げるようにして植え付け、軽く覆土する。これにより、台風等による倒伏を減らすことができる。

また、セル成型苗の場合は、移植機を用いて植え溝の中央に定植する。



定植後（移植機）

部の長さは11月までは25 cm、12月以降30 cmが基準となる。また、収穫延長できる日数は、秋で7～10日、冬で20日程度である。



収穫適期

4 定植後の管理

(1) 土寄せ

定植後2回に分けて植え溝を埋め戻した後、土寄せを行う。4～5回に分けて行うが、土寄せは生育阻害・病害発生の要因となるため、高温・乾燥期は避けた方がよい。また、常に葉身の襟部が地上に出るようにし、根の切断にも十分注意する。

最終の土寄せは、収穫期から逆算して行い、このときはネギの伸びを想定し襟部よりやや上まで土寄せする。期間的な目安は、10月は収穫30日前、11月で30～35日前、12月以降では40日前とする。

ネギの軟白は土寄せ（光線遮断）によって生ずるが、温度としては15℃前後が適し、5℃以下もしくは25℃以上では土寄せを行っても葉鞘部は鮮明な白色にはならない。

(2) 追肥

土寄せ前に畦間に施用する。1回当たりの施肥量は窒素成分で10 a 当たり3～4 kgを目安とする。

5 収穫

作型に応じた適期収穫を行う。収穫が早すぎると、十分な軟白が得られず、商品価値が低下する。軟白